



夢は和菓子の研究所

東大博士号後、実家の店に

「三木屋本舗」藤沢雄太さん



大分市三ヶ田町の和菓子店「三木屋本舗」。長男の

藤沢雄太さん(29)は東大大学院で博士号(工学)を取得後、今年4月から和菓子職人の道を歩み始めた。プラスチックの研究で学会発表や論文執筆に力を注いだ日々から一転、次の夢に向けてあなごを練る。

午前6時半。つきたてのもち米が香る店内で、親子が向かい合って黙々と豆大福を包んでいた。

父の公三さん(81)が素手で等分に分け分けた生地を、雄太さんが手の中で広げ、あなご玉を包んでいく。公三さんは「不器用だと思っ

ろ。在庫管理や翌日の仕込みをして夕方に店を出る。菓子作りは父の作業を見ながら覚えていく。練ったあなごが緩かった時、みたらしのたれが硬かった時、何が原因かを自分で考えて工夫する。そのサイクルは研究室での実験と同じ。手を動かして試行錯誤するのが好きな雄太さんにとって、和菓子作りもまた魅力を感じられる仕事だ。

失敗許される所に

夢に描く研究所は、職人が材料や工法、包装材など

和菓子のあらゆることを実験できる場。なぜ蒸したまんじゅうに亀裂が入ったのか。粉を長く保管する方法は。自分の店では挑戦できないことも、研究所なら失敗が許される。アイデアを試して新しい何かを見つける場にした」と考える。

和菓子職人は一年を通して四季折々の菓子作りを覚える。「1年で1周。自分

はあと何周できるだろう。父親の年齢までできたとしても、せいぜいあと50周。そう考えると時間はない」

失敗を恐れず、やりたいことに突き進む。まだ駆け出しだが、いずれ、自分の挑戦が大分で和菓子職人を

目指す人の力になれば」と願っている。

(渡辺美加)



早朝から豆大福作りに励む藤沢雄太さん(右)と父の公三さん。大分市三ヶ田町の「三木屋本舗」。撮影・首藤洋平

大学と大学院で研究テーマにしたのは自己修復プラスチック。接着剤なしで破損部分が直る素材で、車のコーティングや建築素材への実用化が期待されている。手を動かし、分からないことを解明しながら新しいものを生み出す研究作業が性に合っていた。

手動かし試行錯誤 将来は民間企業の研究職

朝5時に起き、30分後には店に入る。午前中は赤飯や団子、豆大福など生菓子をごしらえる。その後、日持ちする商品を作り、一区切りつくのは午後3時こ

三木屋は公三さんが25歳の時に創業。雄太さんにと

つても自慢の店だった。継

げと言われたことはなく、

両親はいつも自分の選択を尊重してくれていた。

大学院の指導教官に考え

を伝えると「面白そう。い

いじゃない」と背中を押さ

れた。今年3月29日、大阪

で最後の学会発表を終え、

4月1日から店で修業が始

まった。

朝5時に起き、30分後

には店に入る。午前中は

赤飯や団子、豆大福など

生菓子をごしらえる。そ

の後、日持ちする商品

を作り、一区切りつく

のは午後3時こ

三木屋は公三さんが25

歳の時に創業。雄太さん

にとつても自慢の店だ

った。継げと言われた

ことはなく、両親はい

つも自分の選択を尊重

してくれていた。大学

院の指導教官に考えを

伝えると「面白そう。い

いじゃない」と背中を

押された。今年3月29

日、大阪で最後の学会

発表を終え、4月1日

から店で修業が始ま

った。朝5時に起き、

30分後には店に入る。

午前中は赤飯や団子、

豆大福など生菓子をご

しらえる。その後、日

持ちする商品を作り、

一区切りつくのは午後

3時こ

三木屋は公三さんが25

歳の時に創業。雄太

さんにとつても自

慢の店だった。継

げと言われたこと

はなく、両親は

いつも自分の選

択を尊重してく

れていた。大学

院の指導教官に

考えを伝えると

「面白そう。い

いじゃない」と

背中を押さ

れた。今年3月

29日、大阪

で最後の学会

発表を終え、

4月1日から

店で修業が始

まった。

朝5時に起き、

30分後には

店に入る。午

前中は赤飯

や団子、豆

大福など生

菓子をごし

らえる。そ

の後、日

持ちする

商品を作

り、一区

切りつく

のは午後

3時こ

三木屋は

公三さん

が25歳

の時に創

業。雄太

さん

にと

つても

自慢の

店だ

った。

継

げ

と

言

わ

れ

た

こ

は

な

く

、

親

し

は

い

つ

も

自

己

の

選

択

を

尊

重

し

て

く

れ

て

い

た

。

大

学

院

の

指

導

教

官

に

考

え

を

伝

え

る

と

「

い

ん

が

う

さ

う

。」

1

年

で

1

周

。

自

分

は

あ

と

何

周

で

き

る

だ

ら

う

。

父

親

の

年

齢

ま

で

き

た

と

し

て

も

、

せ

い

ぜ

い

あ

と

50

周

。

そ

う

考

え

る

と

時

間

は

な

い

」

失

敗

を

恐

れ

ず

、

や

り

た

い

こ

と

に

突

き

進

む

。

ま

だ

駆

け

出

し

だ

が

、

い

ず

れ

、

自

分

の

挑

戦

が

大

分

で

和

菓

子

職

人

を

目

指

す

人

の

力

に

な

れ

ば

」

と

願

っ

て

い

る

。

(

渡

辺

美

加

)



〔問①〕和菓子店「三木屋本舗」で和菓子職人の道を歩み始めた藤沢雄太さんが大学、大学院で研究していたテーマは何ですか？記事の中から10字で抜き出しましょう。

〔問②〕プラスチックの研究をしていた雄太さんが実家の和菓子店を継ごうと思ったのは、どんなことをひらめいたからですか？

〔問③〕雄太さんが夢に描いている研究所とはどんなものなのでしょうか？それが分かる部分を記事の中から抜き出しましょう。

〔問④〕雄太さんは「自分の挑戦が大分で和菓子職人を目指す人の力になれば」と願っています。あなたには将来の夢や目標がありますか。あなたのその「挑戦」が、どんな人たちの役に立つ（力になる）と思うか、理由も考えて書いてみましょう。